

## FRONTIER



予測できない未来を切り拓くためには、「既存の方法にとらわれず」、自ら適した方法をその都度選択して学び続けることが必要です。ちばっ子の学びに「ICT」という新しい選択肢を増やしましょう。

## 情報モラル教育充実のために…

## タブレット端末等のパスワード設定について

配付された端末のパスワードが全員同じであった事例が報告されています。適切な運用のために、

- ①一人一人異なるパスワードが設定されている
- ②パスワードは（生年月日や辞書に出てくる英単語など）類推できるようなものにしない
- ③他人に教えない
- ④他人から見られるようなところに記述したりしない

といった基本的なこととともに、「なぜパスワードを設定しなければならないのか」を、児童生徒自身に考えさせる機会を与えるなど、子供の自覚を促すような指導も合わせてお願いします。

SNS等でのトラブルなど、情報モラル教育の充実が求められていますが、一口に情報モラル教育といってもその内容は多岐に渡ります。小中学生に多いのは、

- ①主に「コミュニケーション」に関するトラブル
- ②主に個人情報に関するトラブル
- ③主に使いすぎに関するトラブル

これらの課題がある中で、どのような情報モラル教育を行っていくことが大切なのでしょう？

Step 1

## トラブル事例の紹介だけでいいの？

外部講師に毎年、講演をお願いする場合も多いかもしれません。



トラブル事例を見せて怖がらせる。  
映像教材を見せて、トラブル回避法について考えさせる。

子供たちは…

自分は「悪口」なんて言ってない！

自分は「不適切な写真」なんてアップしてない！

自分はネットを「使いすぎ」てない！



※「自分のこと」という意識がないとなかなか浸透しない…

## 指導のポイント！

問題を「自分のこと」として自覚させ、安易な結論を与えず、どのように、対応すればよいかを様々な状況で考え続けさせる（トレーニング）させること

合言葉は「 I (今までの学びに) C (ちょっとずつ) T (取り入れる) 」

## Step 2

# カード分類比較法で「自覚」を促そう！

情報モラル教育については、「もしかすると、私もトラブルを起こしているのでは？」と自覚を促すことが重要です。その時の方法としてあげられるのが、カード分類交換法です。下の①～⑤のカードを嫌だと思う方から順に並べます。

① すぐに返信がない

② なかなか会話が  
終わらない

③ 知らないところで  
自分の話題が出ている

④ 話をしている時にケータイ・  
スマホをさわっている

⑤ 自分が一緒に写っている  
写真を公開される



僕はすぐに返信がないのが  
一番嫌だね！



5→3 →4 →2 →1の順番かな？  
勉強とかで忙しい人はすぐに返事  
できないだろうしね。写真が勝手に使  
われるのが一番嫌かな？

嫌だと思うことは人それぞれで異なります。それぞれの考えを他者と比較しながら考えさせることで、『自分が平気だと思っていることも人によっては異なるのだから、もしかすると嫌な思いをさせていたかも』といった気づきにつながります。

情報モラルで話題となる「不適切な写真」「使いすぎ」などは判断が曖昧になりやすく、児童生徒によってズレが生まれるはず。このズレを考えさせることが、「自覚」を促し主体的に考えるきっかけへとなっていきます。

## Step 3

# リスクの危機を予測する力を高めよう！

「何が危険か」は分かっているが、「〇〇をしない」という指導だけで十分ですか？

「写真や動画は公開しない」「冗談やからかいを言わない」という「0」か「1」の発想の指導だけでなく、「どのような特徴があったら危険と判断すればよいか」という危険を予測する力を育むことが大切です。

1 たいち  
情報大学情報学部2年 / 今年ハチです / 車持ち  
/ 遠くドライブいきたい / マヤちゃん大好き  
フォロワー数: 250

2 みさき  
情報高校1C-2A / 音楽楽部 / ホルン吹いてます  
/ 17才♀ / アニメ大好き / マヤちゃん大好き  
フォロワー数: 58

3 みっち  
東京 / 2児のママ / カフェ店員やっています！  
/ 土曜の夜はホームパーティー / マヤちゃん大好き  
フォロワー数: 540

4 ブラウン  
IT系 / 27歳 / ゲーム実況の動画配信してます  
/ イベント好きの人フォローしてね / マヤちゃん大好き  
フォロワー数: 2,210

5 ルンたん  
情報大卒 / アメリカ留学 / 洋楽 / 英語教えます  
/ 勉強教えてほしい人メッセして / マヤちゃん大好き  
フォロワー数: 32

(例) 教えてもよいリスクのグラデーション

左のSNSのトップ画面を公開するにあたって、「問題なし」「ちょっと危険」「かなり危険」に分類してみましょう！

そして、Step 2と同様にお互いの意見を比較してみましょう。人それぞれの危険という考え方に違いがあることに気付くことができます。

こういった活動を通して、人それぞれのズレなどに気付きながら自分自身の自覚を深めていくことで、充実した情報モラル教育を行うことができるようになります。

顔写真くらいなら大丈夫じゃない？

だれでも見られるから絶対に無理！  
その発想がアンビリバボーだよ！

この写真、本人の写真なのかな？

主体的に生徒が活動して、判断して  
いくことが大切です！

出典：

「令和3年度学校教育の情報化指導者養成研修」講義資料

静岡大学教育学部学校教育講座 塩田 真吾 准教授

千葉県教育庁 学習指導課